

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 3 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204276		
法人名	有限会社ネクストライ		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	広島市中区千田町2丁目8-22 (電話) (082) 545-5255		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204276-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204276-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしさを大事に日々明るく楽しくを理念に利用者様ひとりひとりを尊重したケアを提供できる様に職員一同で努めています。利用者様には季節感や様々な年間行事を体験して頂ける様に外出行事など企画し、実行しています。ボランティアや実習生の受け入れも積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当グループホームは、平成24年3月に猫屋町から現在の地に新築移転して、まる一年が経過しており、地域にとけ込む努力が続けられている。  
職員は、入居者一人ひとりのニーズを理解し、それを実現するべくサポートに努めており、各々の残存能力を生かしながら掃除・洗濯・食事等の援助をするように心がけている。入居者の生活に刺激を促すため、季節毎の外出や地域の行事にはできる限り参加してもらい、季節感を味わったり気分転換を図ってもらうようにしている。  
また、医師や訪問看護師との協力体制の下、要望があれば「看取り」まで対応をしており、家族の協力も得ながら、この1年間で3人の「看取り」がおこなわれた。  
職員関係が良好であり、いきいきと働く姿がとても印象的だった。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月のミーティング前に必ず理念を読み、理念に沿ったケアを提供できるように努めている。理念は1階フロア内で見えるところに掲示しており、いつでも確認できるようにしている。	理念を掲示して周知したり、月1回の全体ミーティングの場で復唱したりして、全職員で理念の共有をしている。理念の実践に向けて、具体的に年間目標を設定して、評価をおこなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的に近所に散歩に行ったり、近所のスーパーに買い物に行っている。毎朝事業所前の道路の掃除を行い、通行人に挨拶をしている。推進会議の際はボランティアコーディネーター、他のグループホームの方にも参加していただいている。	地域の行事には、できる限り参加して交流を図っている。また、町内会の一員として毎朝、ホーム前の道路を掃除したり、挨拶を交わしたり、近所のスーパーを利用したりして、早く地域にとけ込めるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティア養成講座のボランティア実習生の受け入れをさせていただいた。他地域ではあるが、認知症サポーター養成講座も行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の状況や、サービスの内容等伝えている。会議の際あがった意見については実行に移すようにしている、	運営推進会議には家族・町内会長・ボランティアコーディネーター・他のグループホームの管理者・地域包括支援センターの職員が参加し、活発に意見交換をしている。得られた情報はサービス向上に役立てるように努め、冬期には、ノロウィルス対策として消毒液や予防衣の準備をした。	現在、家族への運営推進会議の報告を検討中であるが、家族だけでなく、全職員や法人の介護統括責任者にも会議録を開示して、サービス向上に活用していただきたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域推進会議への案内や参加、会議の報告等は行っている。確認したいことがある時には、必要時相談している。	運営推進会議で、地域包括支援センターから情報をいただきサービスにいかしている。地域包括支援センターの依頼を受けて、管理者が認知症サポーター養成講座で講師を務めた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、毎回ミーティングの際話し合い正しく理解できるように努めている。表玄関、フロア出入口については施錠を行っているが裏庭に出るガラス戸については施錠しておらず自由に出入り出来ている</p>	<p>マニュアルを整備したり、ミーティングの中で、拘束しないケアについて確認しており、職員はその重要性を認識している。ベットからの転落防止のために、現在、やむを得ず、柵を使用している入居者について、柵の廃止に向けて検討しているところである。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修の機会については積極的にもつようにしている。又、言葉使いや、介護方法等については、ミーティングで話し合いを行い虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護の研修については、数名研修にて学んでいる。一部利用者の方で、社会福祉協議会が行っている「かけはし」による金銭管理の支援を受けている</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>本人、家族に十分説明し、理解、納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見や要望に対して、職員全員で共有し運営に反映するように努力している。必要に応じて、推進会議で意見を聞くこともある</p>	<p>面会時を利用して、家族に入居者の状況を伝えたり、意見・要望を聞いたりしている。出された意見等はスタッフノートに記載して、全職員で共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングの際、意見を聞き、反映させている。</p>	<p>月1回のミーティングで職員の意見を聞いている。出された意見については、管理者会議で報告し、介護統括責任者と対策を協議している。職員の意見を基に、入浴日の変更や備品の購入が行われている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>処遇改善交付金を利用し、給与水準を高めたり、代表者は、職員の生活の安定を第一に考え運営している。勤務を組む際には、希望休を確認し、勤務を組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部、外部研修については、必要に応じて参加できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>異業種交流会への参加や、他事業への推進会議への参加、研修の機会を設け、サービスの質の向上への取り組みを行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人の不安なことをしっかり受け止め、安心確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族からの不安や、要望が多いので、初回にはゆっくりと話を聞き信頼関係を築くようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>初回アセスメントの段階で必要な支援を判断するようにしている。医療ニーズが高いときは、主治医、訪問看護との連携を図り支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一緒に食事をする事を基本に、利用者の方と一緒に行動するように努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族にも適宜本人の状況を伝えて、必要に応じて家族にも来ていただき、絆を大切に支えるように努力している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今まで行っていた場所に来る範囲で行っていただく事や、知り合いの方等の面会も制限せず対応している。</p>	<p>入居者がこれまでの関係を継続していけるように支援しており、かかりつけ医を受診する際、近所にあるなじみの薬局やスーパーに立ち寄り、おしゃべりを楽しむこともある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中はフロアーにでていただき、関わりを持つように努めている。レクリエーションや行事等の参加で関わりを深められるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も、家族からの相談がある場合は、相談、支援を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表や、本人との日々の会話の中から、意向を聞きだし、できるだけ本人の希望に沿うように支援している。	全職員が一人ひとりの「好きなこと」「嫌いなこと」に関して気づきを書き込み、入居者の思いを把握している。コミュニケーションが難しい人が野球の話しに反応することが分かり、野球の話題をきっかけに会話できるようになった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント、本人、家族と話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の健康チェック、状態観察により、心身状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護支援専門員が中心となり、本人、家族、職員の意見を反映させ介護計画を作成している。又、月に1回は、モニタリングを行い、本人にとってより良い支援ができるように努めている。</p>	<p>入居者ごとに担当者が決まっており、担当者が行ったモニタリングを基に、ミーティングで検討してケアプランを見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の個別記録に経過を記録している。又、ケア内容についても、この方法が良いと思ったことについては、職員が閲覧できるノートに記入し、情報の共有を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じて、他サービスの提供等行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの方に来ていただきお茶会を開いてもらう、近所のスーパーへ買い物に行く等し、安全に楽しく生活できるように努力している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>受診については、入居時にどこかにかかるか確認はするが、現在往診していただいているところにかかりつけ医となってもらっている。適宜、連携を図り適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>ホームの協力医が定期的に往診し、健康状態を把握している。希望により、今までのかかりつけ医に受診している人（現在2名）もいる。週1回、訪問看護師（夜間対応も可）が訪れ、協力医や職員との連携を図って入居者の健康管理を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回は訪問看護による健康チェックを受けている。その際職員より看護師に、利用者の状況を伝え適切な医療、看護を受けられるように支援している。緊急時や医療面での判断が難しいときは、適宜看護師に連絡し指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な物品等があれば適宜持っていくようにし、安心して治療ができるように支援している。随時、病院との連携を図るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族に入居の段階でも意向を確認するが、医師が終末期と判断があった段階で再度相談し、終末ケアに取り組んでいる。実際に看取りも行った	入居時に終末期対応についての要望を確認している。要望があれば、医師・看護師・家族・職員がその都度協議し、看取りまで対応している。医療との連携体制が確立しており、家族の協力も受けながら、この1年間で3名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応はできるようにしている。定期的な訓練まではできていないので取り組んでいきたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回は定期的に避難訓練を行っている。職員にも周知徹底を促している。災害時の協力について、町内会長にも協力依頼している	定期的に消防署立会いの下、避難訓練を実施している。夜間想定訓練や動けない人の避難方法についても、消防署のアドバイスを受けながら取り組んでいる。	災害時の協力については、すでに町内会長に依頼しているが、今後は、実際に協力を依頼する際の具体的な内容について検討し、災害に備えていただきたい。消防署からのアドバイスを参考にしながら、早期にマニュアルを整備する事が望まれる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いについては、特に気を付けるように管理者より職員に伝えていることもあり、前回に比べて良くなってきている。今後もより良い言葉かけが出来るようにしていきたい	なれなれしい言葉遣いや命令口調の言葉を使わないように心がけている。「やってあげる」ではなく「一緒にやりましょう」との声かけを職員に徹底し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望はしっかりと聞き、自己決定できるように促していくように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の決まりや都合の部分もあるが、本人のペースに合わせて生活できるように日々支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの準備や整容等自分では難しい方には支援している。自ら化粧をされる方もおられる。必要に応じて、好きな衣類を買いに出かけることもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の方にも、声掛けを行いできる範囲で食事作りに参加してもらっている。食器の後片付け等出来る方は、積極的にして下さっている。	食事の準備から後片付けまで、各々のできる事を職員と一緒にいき、会話をしながら共に食事を楽しんでいる。季節の行事食（節分の恵方巻き・ひな祭りの手まり寿司等）を入居者と一緒に作り食事に変化をもたせるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者の個々に応じて、水分の促しや、食事の量等調整している。嚥下が難しい方には、キザミにする等食べやすいように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	拒否される方もおられるが、毎食後声掛けにて歯磨きをしていただく、介助にて歯磨きをしていただくようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的にトイレ誘導を行い排泄できるようにしている。落ち着かなく動かれる方には随時声をかけ、排泄介助を行っている。	排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、失禁を減らすようにしている。夜間もリハビリパンツに頼らずトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給を十分に行うこと。レクリエーションや体操に参加していただく事。介助が必要な方は、排便チェック表をつけ。排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日は決まっているが、時間帯の固定はなく、本人の状況に応じて入浴していただいている。	入浴時に職員と入居者が1対1になれる時間を大切にしている。一緒におしゃべりしたり、好きな歌を歌ったりして入浴を楽しんでもらえるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中でも眠たそうな様子の中には、寝ていただいたり、自由に居室に帰り休んでいただくようにしている。夜間も眠くなった時に、寝てもらおうように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師による薬の管理も行っており、安全に服薬できるようになっている。服薬確認も行い、状態観察も常時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物や散歩等希望者があれば、随時行くようにしている。又、病気による制限がなければ自由にお菓子を食べてもらったり、時々お酒を飲んでもらったりもしている。又、日々のレクリエーションや行事も取り入れ気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望により買い物、散歩に行きたい場合は随時対応している。外出する機会も設ける為、外出行事も計画し取り組んでいる。	週2回の食材の買い出しや個別の買い物と一緒に出かけたり、天気がいい時には近くの公園まで散歩をしたりして、できるだけ戸外に出かけるようにしている。自動販売機のコーヒーが好きで、職員と一緒に買いに出かける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金については、原則、家族、職員で管理している。家族の了承と本人の希望があれば、使っていただけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人自ら電話や手紙のやり取りの希望はないが、必要に応じて支援していく。年賀状を家族宛てに送ることはしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>フローアにはソファを置き、ゆっくり座って過ごせるようにしている。浴室についても十分な広さになっている。食堂も光が入り明るい空間となっている。トイレには、ウォッシュレットがついており清潔保持にも努めている。季節に応じて掲示物を貼り季節感をだしている。又、食卓には花を飾っている。</p>	<p>室温や湿度に気配りしたり、カーテンで日差しの調整を行ったりして快適な空間づくりをおこなっている。また季節の花を飾ったり、壁面の飾りつけを活用して季節感を演出している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フローアには、ソファが置いてあり、気の合った利用者同士で話ができるようになっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室に入る物であれば、今まで使っていた馴染みの身の回り品を持ちこんでもらい、居心地よく生活できるようにしている。</p>	<p>居室は、換気扇で24時間換気を行い、常に新鮮な空気が取り入れられている。自宅で使い慣れた物で落ち着いて過ごせるように工夫されており、お気に入りのイスやテーブルを持ち込んだり、書き物を楽しむための机を置いている人もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置を行い、自由に安全に生活できるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームきらら

作成日 平成25年4月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者に対して言葉遣いが雑な時がある。	丁寧な言葉遣いと態度で介護サービスを提供する。人生の先輩として尊敬の念を持つ。	お客さまに対してサービスを提供するという意識を持つこと。	3ヶ月
2	26	本人、家族、職員間で今以上にコミュニケーションを図り、計画作成、モニタリングを必要あり。	本人、家族、職員に意見を確認し、利用者にとってよりよい計画作成、モニタリングを行う。	モニタリングの時期に家族に状況報告する。意見を踏まえた計画作成、モニタリング（計画表）を郵送する。	3ヶ月
3	2	地域とのつながりを大切に持ち続けたい。	地域との交流を大切にする。	積極的に町内での行事へ参加する。	1年
4	4	現在の推進会議にもさまざまな方が来てくださり意見交換などアドバイスを下さる。	推進会議を中心に地域との交流。サービスの質の向上へつなげることが出来る。	外部の方にも閲覧できる様に会議資料など玄関などへ設置する。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。